

【一薬の魅力④】薬剤師の卒業生も応援 実務実習に臨む学生に白衣など寄贈】

2026/2/9公開



第一薬科大学は、これまで1万5千人以上の薬剤師を輩出してきました。医療現場などで活躍する卒業生らで組織する同窓会からは毎年、薬局・病院で実務実習に臨む薬学部の学生に実習で使用する白衣、学友会からはシャチハタを寄贈していただいております。九州で初めて私立単科薬科大学として開学し、

多くの卒業生が薬剤師として歩んできた本学ならではの、心強い応援です。

2月5日に行われた白衣授与式では、中原広道・薬学部長が「これまで学んできたことが正しかったのか、足りないのか、十分なのかを実感できる機会になると思います。しっかりサポートしていきますので、成長して帰ってきてください」と激励しました。

学生代表4人が中原薬学部長から白衣を受け取った後、学生たちは机上に置かれた真新しい白衣に袖を通しました。代表学生の一人は「大学で学んできたことを実践につなげる経験を重ねるとともに、講義だけでは得られないさまざまなことを吸収していきたいと思います」と決意を語りました。

また、白衣を贈った同窓会の井野博文会長は「今後の『チーム医療』に求められるのは、知識や技術だけでなく、人の話に耳を傾ける力、学び続ける姿勢、人としての誠実さです。同窓会は、みなさまの長い薬学人生の仲間であり、支えでありたいと思っています」とエールを送りました。

最後に、窪田敏夫・実務実習総括部長が「みんなが実習に参加できるようになったことは教員にとって喜びです。倫理観と責任感を持って真摯に取り組んでいただきたい。長期になるので体調管理に気をつけて頑張ってください」と励ました。

